



## 若者たちの活気にあふれるカンボジアから帰国後、 日本を元気にしたいと行政マンへ

齋藤 凱さん 今治市役所 健康福祉部高齢介護課職員  
Kai Saito

カンボジアは、国民の平均年齢24歳、国内総生産(GDP)成長率が7%、若者たちの活気があふれていた。  
日本の平均年齢は48歳、経済成長率は1%にも満たない。そして日本には元気がないと感じた。  
直接対策を打つ仕事に就きたいと、行政マンとして地域社会に踏み込んだ。

### みんな毎日楽しそう

赴任前、カンボジアに対しては漠然と“日本人より貧しくてかわいそう”というステレオタイプの考えをもっていた。

赴任先はベトナムとの国境に近い地方都市。しかし、実際に住んでみると意識が変わった。人々に活気と勢いを感じたからだ。貧富の差はあるが、みんな毎日楽しそうに暮らしている。人々はあいさつ代わりに「ご飯食べた？」と街中で言葉を交わす。「豊かさとは何なのだろう？幸せとは何なのか？」と考えさせられた。

配属先では当初、「こいつは誰だ？」という目で見られた。そもそもカンボ

ジアでは体育の授業がなかったのだ。現地教師たちは子どもの頃、体育の授業を受けたことがない。しかし、児童に教えなければならないといった状況で、苦勞していた。そこで、一緒に体育の授業をすることから始めた。

カンボジアでは2009年に体育の指導書ができ、小学校での体育の授業が始まったが、教員の体育に対する知識・関心が低く、普及していなかった。体育の授業の基本“何のために体育を教えるのか、そしてどのように教えるのか？”教える方も教わる方も手探りだった。

初めて隊員が派遣された配属先であったため依頼される活動は少なく、ゼロから自分でできることを開拓する日々だった。最初は地域の学校を

巡回し、教師たちと人間関係を築いていった。派遣前の70日間の訓練でカンボジアの公用語であるクメール語を勉強したが、伝えたいことをどこまで伝えられているのか自信がなかった。一人で市場に出かけ、身振り手振りで何とか食材を買う。同じことを何度も店の人に話しかけ練習をした。





入庁2日目。  
「今は一つ一つ仕事を覚えていきます」



市役所窓口で市民に対応。  
「誰とでも気軽に話せます」



今治市が広める高齢者体操  
「いまばり筋力つけタイ!操」のモデルに

住んでいた家の大家に、現地の小学生用の教科書や絵本をテキストに読み方を教えてもらうこともあった。

悪戦苦闘の日々であったが、趣味でやっていたサッカーが好機を導いた。

現地のサッカーチームに所属させてもらい、一人のプレイヤーとして活動できたことが大きかった。1年が過ぎるころには「カイ」と名前と呼ばれるようになり、「よお、カイ!元気しているか?」「うちで飯くっていけよ」と笑顔で呼び止められ、一緒にご飯に行ったり、お茶を飲んだり…。その思い出は、今も宝物だ。

### カンボジアにあふれる熱気 日本も活気ある社会にしたい

協力隊としてカンボジアで過ごした体験は人生観だけでなく、日常に大きな変化をもたらしていた。

まず、初対面の人でも気軽に話せるようになり、積極的にコミュニケーションができるようになった。次に、やりたい仕事が見えた。帰国後、日本の元気のなさが気になった。心をとら

えたのは「少子化」「高齢化」という言葉。「今よりも活気のある社会になるよう、暮らしに関わる仕事に就きたい」と行政職を目指した。

今治市の採用試験で協力隊経験者に「優遇措置」があることを知り、受験した。入庁後の配属先は高齢介護課だった。高齢者の介護予防や、介護をしている家族への支援業務を行っている。

今は、まだまわりを見ながら業務を覚えているところだが、隊員時代の経験が活かされ、誰とでも気軽に話すことには自信がある。

高齢介護課の職員として、訪れる高齢者や家族に直接向き合う。一人ひとりの状況を見極めながら、ベストなアドバイスを出さなければならない。業務は多忙だが、淡々と業務をこなすだけでなく、臨機応変に対応できる力を身につけたい。

### 赴任先で教えられた職業観 “社会のため”は“自分のため”

カンボジアでの経験によって自分の

### 齋藤 凱さん プロフィール

鳥取県出身。愛媛大学在学中に青年海外協力隊に応募。卒業後カンボジアで体育の授業の普及に取り組む。帰国後、地域社会と向き合い社会の課題を直接解決したいと今治市役所に入庁。

職業観は変わった。

就職活動をしていた頃、仕事は会社の売り上げのためとか、社会に貢献するため、と思っていたが、カンボジアでそのことを話すと「カイはその考え方で幸せ?」と問われ、即答できなかった。彼女は小学校の教師で、決して仕事をないがしろにしているわけではなく、日々子どもたちの成長を考え、必死で働いていた。

彼女はまた「仕事は自分が生きるため、自分の暮らしを豊かにするための手段でもあり、そのような考え方は何も恥ずかしいものではない」と教えてくれた。この考え方は行政職に就いた今も心の中に根強く残っている。私は住民のために日々、仕事に励んでいるが、その住民の中に私もいるということを忘れないようにしたい。

### 齋藤さんへの エール!

今治市健康福祉部 次長  
兼高齢介護課 課長  
越智祐年 さん



### チャレンジする提案型人間に

これからの時代、「今まででは、昨年は」ではなく、不要なものは捨て、失敗を恐れず、新しいものを取り入れ、チャレンジする提案型人間が必要です。今治市役所では優遇措置を設けてJICA海外協力隊員の採用に応じています。

齋藤さんは今後、様々な部署を経験しながら多くの人と出会うでしょう。素直に耳を傾けながら信頼の階段を一段一段上り、より困難な仕事に挑戦してほしいです。